

今回、内覧会をさせて頂くことになった住宅は、誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインのお家ではなく、ユーモア溢れる「遊び心のある家」です。

玄関と繋がるリビング空間、段差のあるダイニング、ボルダリングスペース、薪ストーブ、ロフト、造作キッチンなど、見どころは豊富です。



▲今回のお家を一足早く  
チラッと見せ

良い家づくりをするために

家づくりを進める際に、「価格と性能」をある程度理解し、「安心して住宅を購入したい!」と思う方が大半を占めているように思います。そして、各ハウスメーカーや工務店は、数値化したわかりやすいデータを表示し、坪単価や性能を開示します。しかし、その数字だけを見て住宅を決めようとしても、何が正しいのかわからなくなってしまう、何年間も家づくりを進められないのが、住宅業界の現状です。そのようにして建てた家は、本当に良い家なのでしょうか。家は、単なる「住むための器」ではありません。住む人の生活や心のあり方に深く影響を与え続け、精神の安定を醸成する土壌でもあります。今回の内覧会を通して、「良い家づくり」を肌で感じて頂けると嬉しいです。

## 良い家づくり。

zuiun便り vol.49

現代の住宅素材

服や雑貨を購入する際、インスタグラムやフェイスブック等のSNSを通じて、簡単に情報入手する機会が増え、「良いモノ」を見極める消費者のセンスは、急速に底上げされているように感じます。一方、住宅では専門用語や分かりにくい数字が並び、「良い住宅」を見極めるのは非常に困難です。

日本では高度経済成長期を境に、住宅の生産方法は、「質より量」に変化しています。そして、高度経済成長期以降にスタンダードとなった家づくりでは、「ニセモノ(似せ物)素材」が主流となりました。木に見えるが木ではない:レンガに見えるがレンガではない:そして、このことに気付いている人はとて少なく思います。

愛着のある家づくり

今回の住宅では、本質の素材をより多く使っています。特にLDK内は、ビニールクロスや木目シートを使わずに、自然素材に馴染む塗料をセルフペイントするなど、愛着の沸く素材選びを徹底したお家でもあります。出来る限り評価や価値の決まった既製品を使用せず、一から家具や建具を検討し、その空間に寄り添うよう検討しました。そして、愛着のある「素材」で構成された空間は、豊かな暮らしを、きっとより良いものにしてけると信じています。



▲本質素材にこだわったLDK